

氏名	住 吉 正 行
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1540 号
学位授与の日付	昭和60年3月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	岡山大式 Mark-II 人工膝関節置換術後における膝蓋大腿関節 について
論文審査委員	教授 寺本 滋      教授 折田薫三      教授 村上宅郎

### 学位論文内容の要旨

岡山大式 Mark-II 人工膝関節置換術後の膝蓋大腿 (PF) 関節について研究した。PF 関節障害は、63関節中18関節 (28.6%) にみられた。その頻度は術後経過年数によって異なり、術後1年末満のものでは66.7%と最高であるが、術後3～4年で8.3%に減少し、それ以降再び増加することがわかった。PF 関節障害と大腿脛骨角や膝蓋骨の高さ、側方偏位度などとの関連性は見出せなかった。術後3年以内に膝蓋骨裏面は大腿骨モールドの面に沿って改変されてゆくと考えられ、レ線的には膝蓋骨裏面は凹面形成が起り、不規則な骨硬化像や透過陰影が出現する。この改変の過程で PF 関節障害が生ずると考えられた。術後3～4年で改変は完成すると考えられ、この時期には PF 関節障害は少ない。レ線的には膝蓋骨裏面の凹面形成、一様で鮮明な骨硬化像をみる。術後4年以降になると、慢性関節リウマチ (RA) 群では大腿骨モールドのゆるみによって PF 関節障害を起し、レ線的に不規則な透過陰影の出現してくるものや、局所の RA の再燃などによって臨床像の不明確な PF 関節障害をあらわしてくるものがあると考えられた。

### 論文審査の結果の要旨

本研究は岡山大式 Mark-II 人工膝関節置換術後における膝蓋大腿関節について、43症例63関節を対象として、臨床的、レ線学的に検討した結果、膝蓋大腿関節障害に関する重要な知見を得たものであって価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。